

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	横浜市中部地域療育センター児童発達支援センター		
○保護者評価実施期間	令和6年11月11日	～	令和6年12月18日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 120	(回答者数) 73	
○従業者評価実施期間	令和6年11月11日	～	令和6年12月6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 25	(回答者数) 25	
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月28日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもに合わせた支援ができていること	個々の子どものアセスメントを定期的に行っている 活動内容も子どもの評価に基づき計画している	アセスメントの力を向上していけるように、通園内及び他科からの研修を継続的に実施していく
2	個別支援計画に沿った支援が行われていること	個別支援計画は、日々のクラス内の評価に基づき、具体的な支援を考えるようにしている 芽生えのポイントを目標とし具体的支援を保護者にお伝えしている 日々のクラスミーティングで活動時の動きや支援のレベルの確認を具体的に確認している	それぞれの障がい特性に合わせた支援のスキルを向上するために、主任等がクラスミーティングに参加しアドバイスをおこなう
3	子どもたちが安心感を持って通所していること	子どもに合わせた支援(活動内容)ができるように毎回のクラスミーティングで確認をしている	上記と同様 子どもに合わせた支援ができるために職員の育成を行っていく

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	きょうだい支援	きょうだい預かりサポート事業を今年度パイロットケースで実施した。制度上の問題などで次年度実施が困難となり、新たな事業展開が必要となっている。	・きょうだい預かりサポートの実施 ・きょうだいへの支援について考えることから始める
2	地域支援	・単独並行通園児の就園先への訪問がクラス体制上難しく実施できていない ・単独並行通園児の就園先には研修会を実施しているが、親子通園は実施できていない。	・一部の子どもの就園先訪問を行い情報交換をおこなう ・研修会の拡充の検討
3	生活空間	建物自体が古くなっていて、修繕などを随時行っているがすぐに対応できないことも多い。 療育支援への検討に時間がかかり十分に清掃等に時間をかけることができない。	・清掃や物の整理等に力を入れる。(今まで同様時期を決めて大掃除は行い、日々の整理ができるように棚の利用等を考える)